

2. NTT西日本グループの事業と環境との関わり

事業と環境のかかわりの全体像

事業活動が与える環境負荷

西日本全域で事業を展開するNTT西日本グループは、事業規模も大きいだけに大きな環境負荷を与えています。例えば、お客様の通話を可能とするためには、電話機や西日本全域に張り巡らされた通信ケーブルおよび交換機等のネットワーク(図1)が必要となり、それらに関する物流・工事・運用・サービス・商品の提供といった事業活動には大きな環境負荷が伴います。次ページに示すマテリアルフローには、その中でも大きな環境負荷となる要素を具体的に示しています。当図に示しますとおり、当社の企業の責務としての環境

共生への課題は、主に通信設備に使用される電力使用量の削減(温暖化防止対策)、撤去通信設備・土木・建築・オフィス内の全てに関する産業廃棄物の削減およびリサイクル率の向上(廃棄物削減対策)、主に電話帳に使用される紙資源の節約(紙資源削減対策)となります。

NTT西日本グループは、このマテリアルフローを定量的・定期的に把握し振り返ることにより、継続的な環境負荷の低減に役立てています。

ICTサービスの提供による環境負荷低減

また、一方でNTT西日本グループは、Information and Communication Technology (以下ICT)を利用した商品・サービスを提供することで、社会全体の環境負荷低減に貢献できると考えています。

例えば、TV会議システム、在宅勤務システムを活用することにより、人の移動が不要になることで、環境負荷を低減

することが可能となります(図2)。また、様々な購買活動や調査活動にもICTサービスを適用することで、人の移動に係わる環境負荷を低減することが可能です。NTT西日本グループは、事業活動が与える環境負荷低減とともに、このようなICTサービスの提供による環境貢献に取り組んでいます。

図1 通話・通信などを可能とするNTT西日本のネットワーク

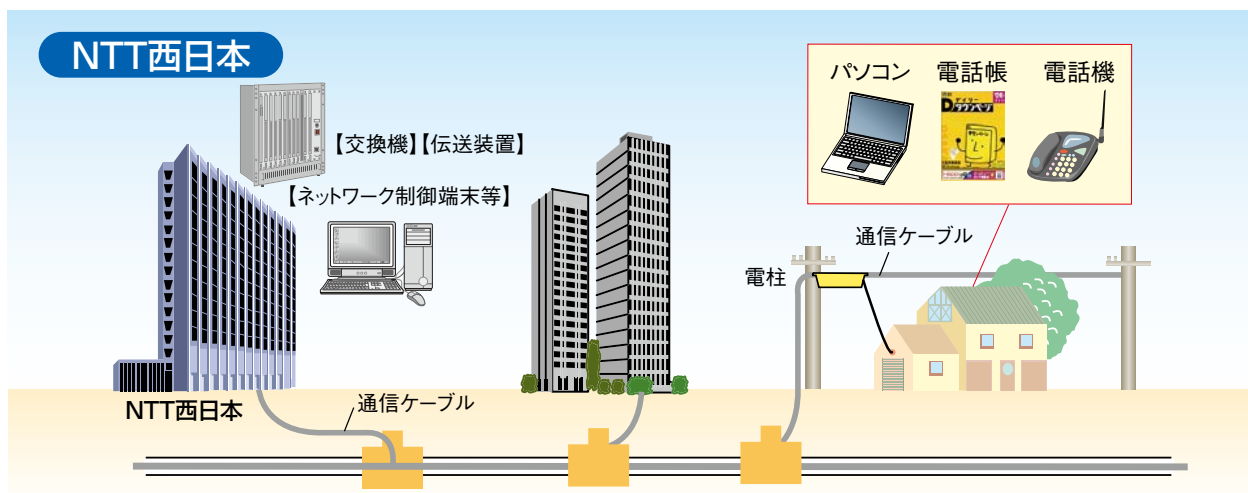
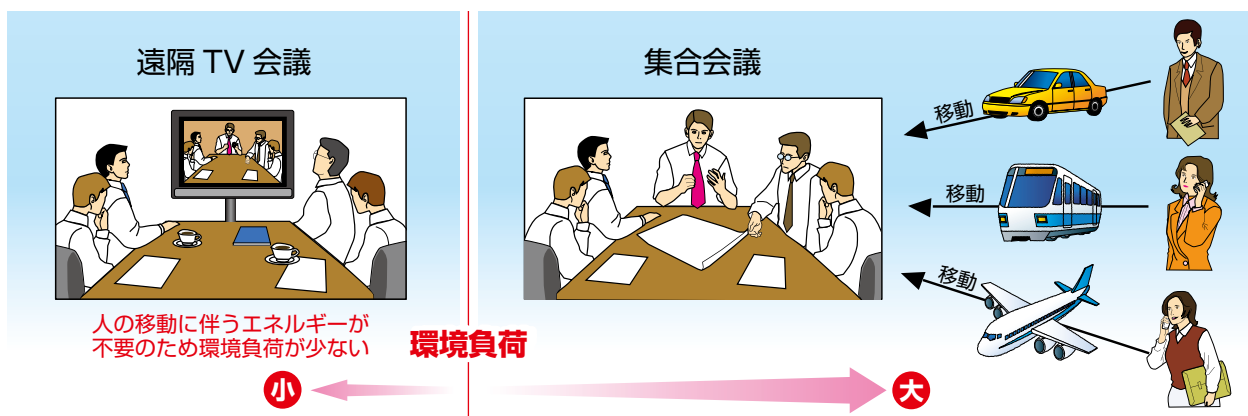
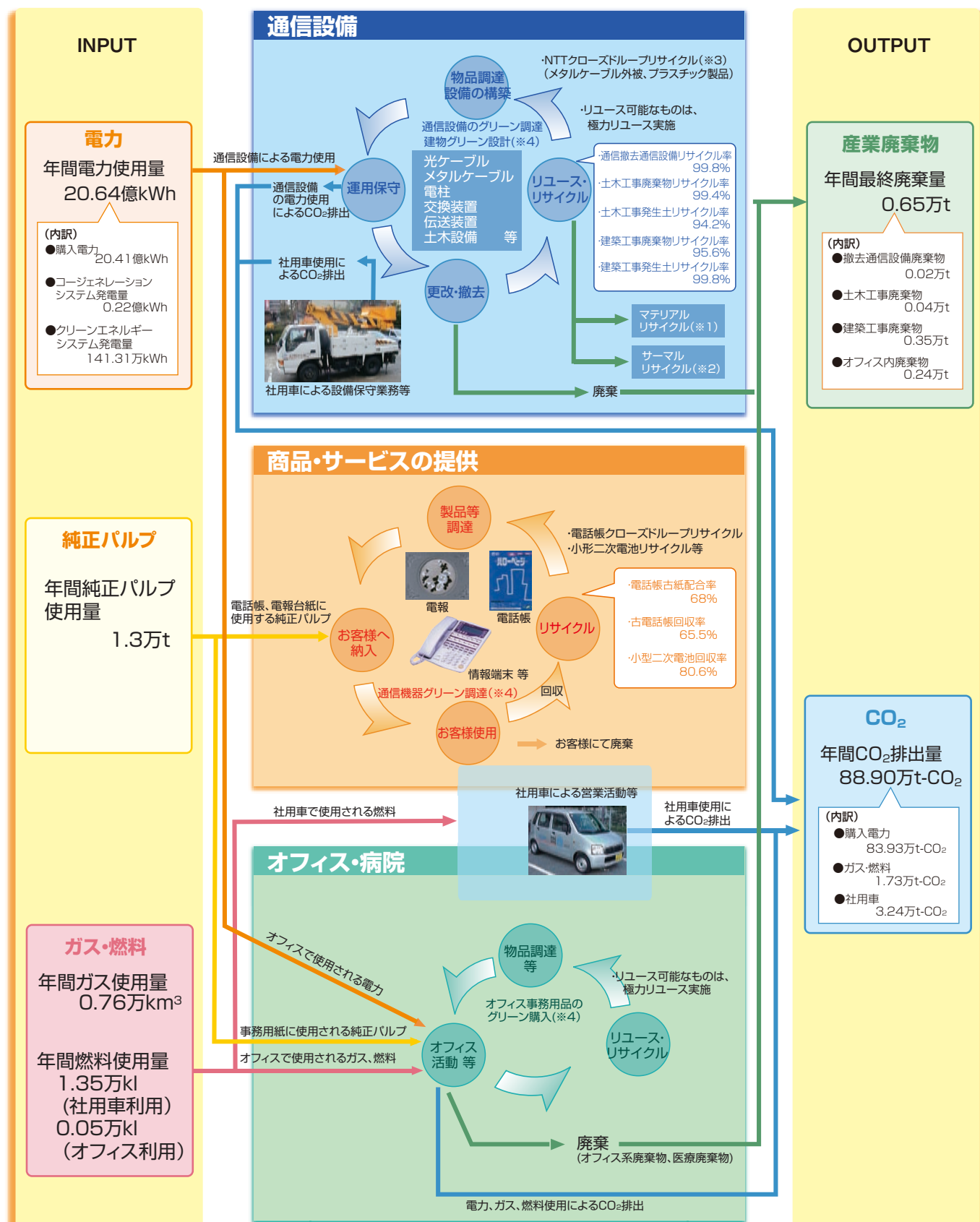


図2 NTT西日本のICTサービス提供による環境負荷低減の例(テレビ会議の場合)



2006年度のマテリアルフロー



※1 マテリアルリサイクル:廃棄物を回収し製品の原材料として再利用すること。
 ※2 サーマルリサイクル:廃棄物を回収して燃やし、これを熱エネルギーとして再利用すること。
 ※3 クロスドロープリサイクル:NTT撤去物品等をNTT物品として再生することであり、マテリアルリサイクルの方法の一つです。電話帳は回収した古電話帳を新しい電話帳用紙に再生することから、クロスドロープリサイクルと呼んでいます。
 ※4 グリーン調達・設計・購入:電気通信設備等の構築から、社員が使用する事務用品、お客様へ提供する製品に至るまで、環境に配慮した調達・設計・購入をしています。